

## ◇編集後記◇

編集委員会の副委員長を仰せつかってから、隔週の週始めの査読作業がかれこれ1年近く続いています。3か月に一度の割合で巡ってきた査読依頼だけで感じていた追われ気分と、段違いの多忙感と切迫感です。

副委員長の重要な役割に、初期段階のふるい分け機能があります。ゲート機能とも呼べるものでしょうか。

JOHへは2週間に10数編の原稿が寄せられています。電子投稿化した効果でもあります。川上編集委員長は全ての投稿論文に目を通して、各論文の担当副委員長を決定し、その割当て結果を隔週月曜日の朝一番（時には前日の日曜日の夜遅く）のメーリングリストに乗せてこられます。各論文につけられた委員長の寸評を拝見しながら、パスワードで担当分をサーバーからダウンロードし、PDF形式の原稿をプリントアウト。Abstractを読み、Tables and Figuresを点検し、Introduction, Methods, Results, Discussionの概要を把握することになります。

ここで最初の判断が迫られます。ゲート機能です。Rejectするか、査読につなげるかの重い判断です。

MethodsやResultsも読んで再度読み返しても理解できない内容をAbstractにしている原稿、図表がやたらに多い原稿、本文中に1, 2行で十分説明できるものをわざわざ大きな図表にしている原稿、原著希望なのにReview風に延々とIntroductionやDiscussionを展開している原稿、逆に抄録原稿かと勘違いするほどの短かすぎる原稿、他の雑誌でrejectされたものを即日こちらに

投稿してきたのではと感じさせるような投稿形式が合致していない原稿などは、JOHを選んで投稿してくれているとはいえ、reject判定を余儀なくさせられることとなります。査読の価値ありと判断すれば、その領域に造詣が深い国内外の専門家の中から査読候補者を2人選ぶこととなります。

担当が割り当てられてから、査読候補者決定までの作業を2日間で終了させることがこの段階での約束事になっています。複数の論文を同時に担当することも稀ではないため、しかも私個人の通常の仕事もありますから、聞くと見るとでは大違いの世界です。

こうしたゲート機能は、より適任の専門家に査読を依頼するためにも、また、全ての投稿原稿を回して査読者に過度の負担がかからないようにするためにも、そしてrejectとならそれを素早く著者に伝え、不要な期待感を防ぐためにも、副委員長に課せられた重要な役割の一つと考えています。

JOHの投稿規定が改訂されました。従来よりも指定が詳細になりましたが、ゲート機能がより迅速かつ的確に働くことを期待したからでもあります。

投稿にあたっては、是非、投稿規程をよく読み、それに従って頂くことを願っています。そのことが、投稿から掲載までの期間を結果的に短縮することになると信じています。

(車谷典男)

## ◇正誤表◇

産衛誌 50 卷 p.167 表IV-1. 感作性物質  
気道 第1群から ロジウム を削除

## 「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：川上憲人（東京大）

副委員長：荒木田美香子（国際医療福祉大）、井上和男（東京大）、上島通浩（名古屋大）、  
車谷典男（奈良医大）、堤 明純（産業医大）、森 満（札幌医大）、森本泰夫（産業医大）

有澤孝吉（徳島大）、石竹達也（久留米大）、市場正良（佐賀大）、小笹晃太郎（京都府医大）、掛本知里（東京女子医大）、川口陽子（東京医歯大）、熊谷信二（大阪府公衛研）、黒沢洋一（鳥取大）、河野公一（大阪医大）、酒井一博（労働科学研）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（独法労働安全衛生総研）、塩飽邦憲（島根大）、菅沼成文（高知大）、笠島 茂（国立保健医療科学院）、埜田和史（滋賀医大）、竹内 亨（鹿児島大）、田中昭代（九州大）、谷川 武（愛媛大）、土井由利子（国立保健医療科学院）、中尾睦宏（帝京大）、橋本英樹（東京大）、馬場園明（九州大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、福島哲仁（福島医大）、丸山総一郎（神戸親和女子大）、三木明子（筑波大）、村田勝敬（秋田大）、森河裕子（金沢医大）、八幡勝也（産業医大）、吉田貴彦（旭川医大）、若林一郎（兵庫医大）、渡辺博且（産業医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番